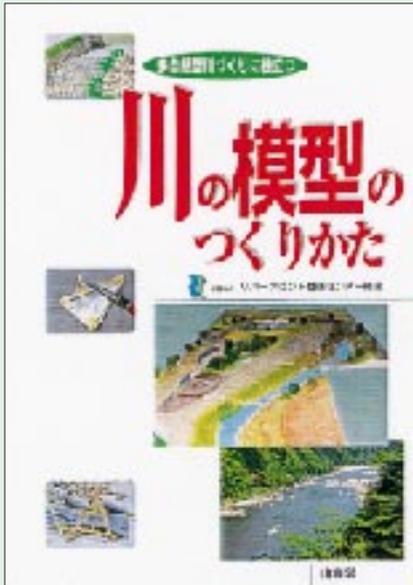


新刊図書の紹介

『川の模型の作り方』



編集 (財)リバーフロント整備センター
発行 (株)山海堂
体裁 B5判、冊子、196頁
定価 各4,935円(本体価格4,700円)

豊かな自然環境の保全・再生・復元を目指す多自然川づくりは、各地で施工例が急増しています。そして河川技術者だけではなく、生物学者や地域住民も含めて「どんな川をつくるのか」という議論が交わされるようになりました。しかし、お互いの立場や川に対する考え方が異なるため、目指す川のイメージが共有できないままに施工がおこなわれ、「考えていた川とは違う」という結果になってしまうことも、ままあるようです。

本書は、川づくりの過程で意志疎通を円滑にし、それに関わる人たちのイメージを共有するために、川の模型をつくることを勧めています。模型づくりの手順はもちろんのこと、短時間で簡単にできる製作ポイントや使用する道具・材料について、さらに、つくられた模型の実際の活用例なども紹介しています。

川づくりを行ううえで模型が、さまざまな人々の新たな発見や興味を湧き出させ、意見交換の媒体になることを願っています。

河川工事ハンドブック『自然に適合した工法』

近年、河川は平野における貴重な自然生態保全の場であるということから重要視されるようになり、それとともに河川工事にコンクリートや鉄を多用することへの反感や嫌悪感も高まってきています。

もっと自然の材料である樹木、石、土砂等の使用を促進すべきであるとの意見が、市民の間からも行政の関係者からも出されています。

ドイツ、オーストリア、スイスのドイツ語圏では、ここ20年来、近自然工法(“Naturnahe Wasserbau”)等の名で呼ばれる、自然に配慮した河川工法が試みられ大いにその実績をあげています。

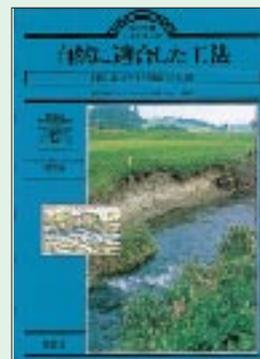
わが国へも10年ほど前からそれらの情報が入るようになり、現地調査へ出かけ感銘を受けてくる人々も多くなりました。

このたび翻訳出版された「河川工学ハンドブック - 自然に適合した工法」は、南ドイツのバーデンヴィルテンベルク州政府の環境省が発行している河川自然工法の手引書です。

写真や絵が多数挙げられており、自然に適合した河川工法の基礎をわかりやすく説明している好著です。

一読して、これは日本古来の河川工法ではないかという感じもしますが、温故知新という言葉もあり、良いものは未来へ向けて新たな観点から再評価して採り入れれば良いのでしょうか。

本書が、河川の自然回復に挑戦される人々の参考になることを確信しています。



編 バーデンヴィルテンベルク州環境省
監訳 (財)リバーフロント整備センター
発行 (株)集文社
体裁 A4判、104頁
定価 3,675円(本体価格3,500円)